

# 幸長 トップの力証明

陸上  
 日本選手権

1日、新潟市のデンカビッグスワンスタジアムで開催した陸上の日本選手権の男子砲丸投げで、徳島県の幸長慎一(四国大大学院)が17びつを投げて初優勝した。前回王者の武田歴次(栃木県スボーツ協会、生光学園高)と日大(四国大大学院)の武田歴次(日大)は17びつを投げて初優勝した。

58で4位だった。(1面参照)

## 「動き活発に」5投目逆転

中学、高校、大学の各カテゴリーで常に日本のトップを走ってきた幸長(四国大大学院)が、ついに国内最高峰の大会で頂点を極めた。優勝が決まった瞬間はうれしがこみ上げてきた。「あまり感情を表に出さない幸長らしく淡々とした口調で振り返りながらも、一言一言に喜びがにじみ出た。出だしは良くなかった。「普段の動きができず、安定感もなかった」と振り返る1、2投目は平凡な16びつ台にとどまった。指導を受ける四国大の林コーチから「動きを活発に」との指示を受けてスイッチオン。3投目で17びつを投げ、トップに24センチ迫る3位で後半戦に入ると、5投目でセカンドベストとなるこの日

最長の17びつをマークして1位に躍り出た。右膝が万全ではないまま出場した3週間前のインカレは2位に終わり、3連覇を逃した。膝の状態は改善したものの、今度は右肘に違和感を覚えた。それでも違和感を覚えない練習を続け、今大会への出場を最終決断したのは3日前の9月28日。入賞を目標に臨んだ大会で最上の結果を出した。



ゆきなが、しんいち 兵衛県の姫路東中時代に投てきを始め、2、3年時にジュニア五輪田舎投げを連覇。生光学園高3年時の全国総体(インターハイ)で砲丸投げを日本高校新記録で制し、田舎投げは大会新記録で優勝した。2016年に四国大に入学。日本学生対校選手権(インカレ)で砲丸投げは、4年時に2連覇した。今春、四国大大学院に進んだ。兵衛県姫路市生まれ。184センチ、100キロ。